

# 自分自身と向き合う MR 剣道稽古システム ーオートエスノグラフィーを通じた剣道における「気」の探究ー

古田 花恋

人を殺すために剣を使う時代は過ぎ去り、剣は人の精神修養を支える存在となっている。剣道において、戦う相手は目の前の人間ではなく自分自身であり、その本質は礼儀や忍耐、精神の統一といった精神的な成長にある。本研究では、MR（複合現実）技術を活用し、剣道における「気」という、これまでに属人的とされてきた概念をデジタル化するとともに、自分自身を模したデジタルヒューマンと剣を交わすシステムを構築した。本システムを通じた自分自身との剣道の稽古が心身に与える影響をオートエスノグラフィーによって明らかにする。

自分自身と向き合う MR 剣道稽古システムは、これまでの VR（仮想現実）剣道システムのように技術支援や動作分析に焦点を当てたものではなく、剣道の「道」としての精神性や剣道における「気」の解明に新たな視点から迫ることを目的としている。さらに、剣道の文化的背景を尊重し、「気」を視覚、聴覚、触覚的観点から MR 技術を活用して表現する試みを行った。

オートエスノグラフィーでは、著者自身が MR 剣道稽古システムを用いて 10 日間にわたる稽古を行い、その影響を批評した。結果として、稽古を通じてデジタルヒューマンとの関係性に変化が見られ、礼儀作法が形成される様子が確認された。さらに、デジタル化された「気」の感じ方を「間合い」「機会」「音」に着目して分析した。また、稽古を重ねることで自己理解が深まり、それが剣道技術の向上に寄与していることも示唆された。

本研究は、武道である剣道とテクノロジーを剣道の理念に基づいて融合した取り組みである。人間がデジタルヒューマンとして複製される技術が進むなかで、この取り組みは、人を人として、自己を自己として、たらしめているものを問い直す意義を持つだろう。

(指導教員 落合 陽一)